

主よ、人の望みの喜びよ

校 長 武井 正明

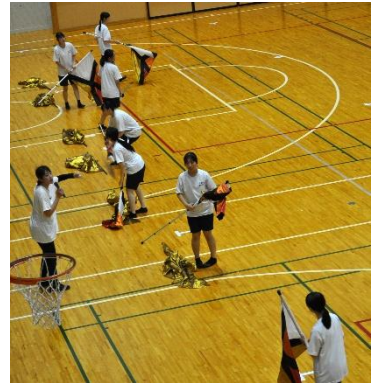
1723 年、今から 302 年前に、かの有名なヨハン・セバスチャン・バッハが作曲した。聴けば誰もがみな、ああこの曲かと、一度は耳にしたことがある名曲だ。今年のカラーガード部は『主よ、人の望みの喜びよ』で勝負する。

この曲にはドイツ語の歌詞がある。私は日本語の対訳を読んで、最も印象に残ったフレーズは「イエスは私の命の力 目の歓びにして太陽」である。イエス＝神様と考えるに、どんな時も、祈りの対象として神様がいることの幸せと喜びを、包み隠さず体中で表現しているように、私は理解した。

今回は吹奏楽部地区コンクールや県大会と日程が重なり、埼玉熊谷会場でのガードの演技鑑賞を断念した。その分、彼女たちの直前の最終調整をしっかりと見届けたいと思う。

普段は少し抜けているところも覗かせ、練習の合間には手を振り余裕の笑顔。そんな愛嬌たっぷりのガードメンバーも、いよいよギアは本番モード、彼女らの眼は真剣そのものだ。

外部指導員藤田真理さんのアドバイスに耳を傾け、ひとつひとつの動きが揃っているのか、入念な確認が何度も繰り返される。佐々木・齋藤両顧問も彼女らを温かく見守る。



一昨日、演奏曲を通して踊る彼女たちを、初めて観た。

原曲を聴いた時は、ゆったりとした祝宴ムードで演技が進むものと思っていた。しかし、アレンジされた演奏曲は、予想とは全く違い、打楽器の激しく早いリズムが、鼓動のように畳みかける。演者は、追い掛けていくだけでも息切れしそうなスピードだ。僅かな油断が命取りになる。彼女らは全員が同じ気持ちで、呼吸と動きをしっかりと合わせ、旗を振り、汗だくで演技した。



これを何回も何回も繰り返すのか。人知れず、地道な練習の積み重ねがあって、ようやく華やかな作品が完成する…すごいな、カラーガード部って。

昨日放課後は、校内発表会に先立て、吉中教職員に演技を披露してくれた。出来は「まだ 50 点」とのこと。今の出来に満足するわけにはいかない。心意気やよし、だ。

明日の昼休み第一体育館で校内発表会。吉中生達の見守る中で壮行演技だ。思いっきりリハーサルしてほしい。笑顔で全力演技の、キラッキラの君たちを観るのが楽しみだ。